

令和5年度(令和4年度実施事業分)主要事業評価シート										No.	13-5	
PDCA	主要事業名		半田赤レンガ建物管理運営事業		部課名		市民経済部観光課			担当	伊藤	
								内線			330	
P 総合計画との関係性と予算根拠	総合計画： 2 - 1 - 1 単位施策： 観光											
	全体事業期間： 令和 4 年度 ～ 4 年度 全体事業費等： 64,606 千円											
	会計		一般会計				歳出科目： 06.01.04.03.06					
	事業概要等	事業概要： 観光客の市内回遊の拠点施設として多くの観光客を誘客するため、民間事業者のノウハウや創意工夫による指定管理者制度を活用した管理運営を行う。										
		事業目的： 半田赤レンガ建物の歴史と文化財的価値の発信を通して、認知度向上と来訪者増加に伴う消費額の増加を図る。										
		事業内容： 指定管理者によるカフェ、ショップ、常設展示室、貸室の運営、誘客イベントの開催、建物の維持管理を行うため、指定管理料を支出する。										
		問題点・課題等： 新型コロナウイルス感染拡大の影響により、大型集客イベントの開催が困難であるため、新しいスタイルの誘客施策を模索していく必要がある。										
	予算額	主要事業とする理由										
	64,606 千円	全国屈指の規模を誇り、文化財的価値もある建物を観光資源として有効活用することは重要であるため。										
	財源内訳	得られる成果										
	市費	建物がもつ歴史と文化財的価値の認知が進み、市民の愛郷心の醸成と来訪者増加に伴う消費額の増加が期待できる。										
	64,455 千円											
	国費											
	0 千円											
	県費											
	0 千円											
その他												
151 千円												
D 実績得られた成果と	決算額	得られた成果										
	66,931 千円	新型コロナウイルスによる制限緩和により人流も回復の兆しが見え、計画していたイベントも中止することなく開催することができたことで、来場者数も目標を達成することができた。半田赤レンガ建物の内観を活かした展示会の誘致や、地元企業と連携した新商品の開発により、新たな魅力の発信にも繋がった。										
		成果指標										
							令和4年度		単位			
	半田赤レンガ建物来場者数			実績値		411		千人				
				目標値		300		千人				
C 課題の整理	事業の評価・課題	B 「カブトビールフェスタ」、「ドイツフェスティバル」等の集客力のある大型イベントを再開することができ、年間来場者数は目標値を上回ることができた。また、ジブリパーク開園に合わせて、シベリアの常時販売を開始し、ジブリパークの来場者への誘客PRを図ることができた。貸館においては、全国で初の開催となる京都嵐山オルゴール博物館の展示会を誘致し、市内外へ赤レンガ建物の魅力をPRすることができた。さらに、国の補助事業を活用し、赤レンガの新たな看板商品となる知多和牛のローストビーフ丼を開発し、地元企業との連携強化と認知度の向上を図ることができた。										
A 課題今後の解決の方向性	今後の事業の方向性	改善推進 日常的な誘客増を目指して、赤レンガBBQの期間延長と平日の予約受付を開始し、夜の建物の魅力と地元の食材を同時に楽しめるコンテンツとして拡充する。また、誘客が弱くなる冬季に、新たに「赤レンガクリスマスマーケット」を開催し、半田赤レンガ建物のイルミネーションとドイツ色を取り入れた食事や物販の販売などにより、誘客増を図るとともに、赤レンガ建物の新たな魅力の発信を図っていく。										
	観点別評価	必要性		有効性				効率性				
		①市の関与の妥当性 妥当		④上位施策への貢献 大きい				⑦コスト削減 余地		ある		
		②市民ニーズ 高い		⑤成果向上の余地 ある				⑧受益者負担適正化余地		※対象・手段の変更		
		③休廃止の影響 大きい		⑥類似事業の有無 ない						ない		